

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	55人	算数	55人	理科	56人
第5学年	国語	66人	算数	66人	理科	67人

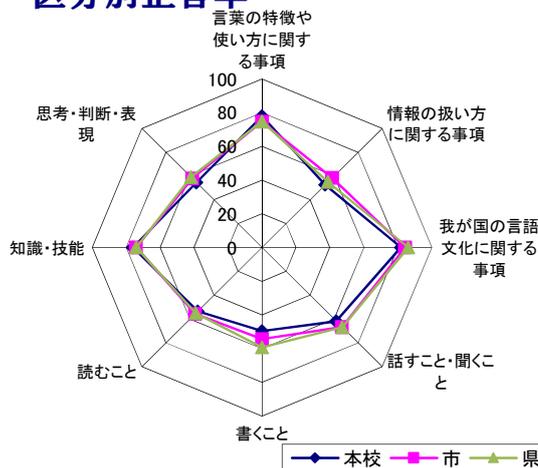
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.0	74.7	74.8
	情報の扱い方に関する事項	52.7	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	81.8	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	61.8	66.7	66.9
	書くこと	49.6	54.3	59.3
	読むこと	53.4	55.6	55.2
観点	知識・技能	76.0	74.1	74.0
	思考・判断・表現	54.6	58.0	59.1



## ★指導の工夫と改善

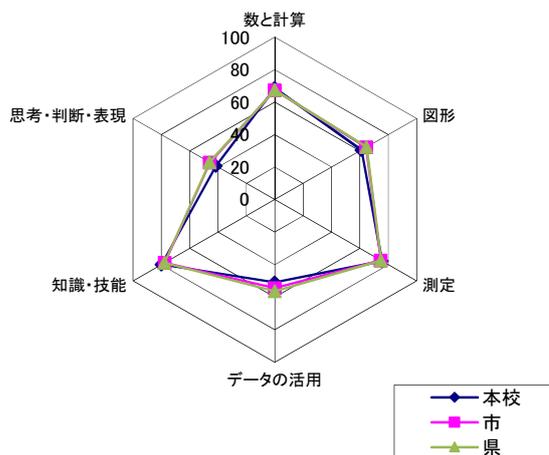
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は78.0%で市の平均を3.3ポイント上回っている。</p> <p>○主語と述語、ローマ字は、正答率も高く定着が見られる。</p> <p>●漢字の書き、主語、述語、国語辞典の使い方などに課題が見られた。特に、漢字の書きは県や市と比べ、無解答率が高い。</p>	<p>・新出漢字について、ただ書き順を確認するだけではなく、熟語集めや普段から既習の漢字を使って文章を書くように意識させ、習熟を図る。</p> <p>・国語辞典を廊下や教室の後ろなど、いつでも使える環境を整え、国語辞典を日常的に使う機会を増やすようにする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は52.7%で市の平均を5.7ポイント下回っている。</p> <p>●正答率が約半数、無回答率が3.6%で県や市より高く、言葉の正しい使い方や国語辞典の正しい使い方に課題が見られる。</p>	<p>・資料をもとに、まとめる作業を増やしたり、説明文の問題の中で、同じや違うといった資料相互の関係を見取るなど、資料や情報を適切に処理できるよう、授業の中で意識的に取り入れていく。</p> <p>・資料を見比べる際のポイント等を、授業で伝えることで、資料相互の関係の読み取り方を繰り返し行う。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は81.8%で市の平均を2.5ポイント下回っている。</p> <p>●漢字のへんやつくりに関して、漢字の習得を苦手としている児童に課題が見られる。</p>	<p>・新出漢字のときに、同じへんやつくりの漢字を集めるなどをして、多くの漢字と関連付けて習得できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は61.8%で市の平均を4.9ポイント下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの中心を捉えることに関しては、市の平均を少し上回っている。</p> <p>●会話の流れに沿った文章を考えたり、自分の考えをまとめることに課題が見られ、両項目ともに無解答率が高い。</p>	<p>・ペアやグループでの話し合い活動の目的を明確にし、必然性をもって話し合う機会を設け、自分の考えとまとめ伝えられるようにする。</p>
書くこと	<p>平均正答率は49.6%で市の平均を4.7ポイント下回っている。</p> <p>●無回答になってしまった児童が2割程度おり、条件にあった内容を作成したり、事例を挙げて自分の考えを明確に表すことに課題が見られる。</p>	<p>・書く時の条件や字数制限などを意識して、お礼の手紙や行事の作文など、目的を明確にして書く活動を充実させ、簡潔に書くことや詳しく書くことなどの機会を増やす。</p>
読むこと	<p>平均正答率は53.4%で市の平均を2.2ポイント下回っている。</p> <p>○叙述を基に内容を読み取ることに関しては、市の平均よりやや高い傾向にある。</p> <p>●登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題は、市の平均を10.7%下回り、課題が見られる。</p>	<p>・登場人物の気持ちを、考える際にしっかりと叙述を基に考え、根拠を明らかにして思考を深める機会を意図的に増やす。</p> <p>・中心となる語や文を見つけて、要約する活動を意識的に取り入れる。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.6	67.3	67.4
	図形	61.1	64.5	64.7
	測定	75.5	74.7	74.9
	データの活用	50.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	79.8	77.6	77.8
	思考・判断・表現	41.6	45.8	46.1



## ★指導の工夫と改善

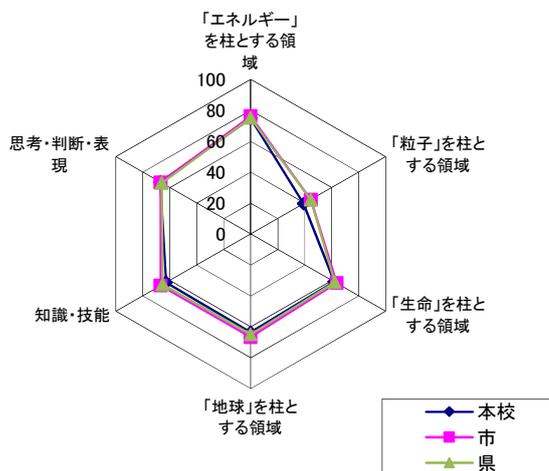
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は68.6%で、市の平均を0.7ポイント上回っている。</p> <p>○小数のしくみや表し方、同分母の真分数+真分数=真分数の計算について、正答率が90%以上できている。</p> <p>●式の意味の説明や数直線の読み取りについて、正答率が低く、無回答があり、理解に課題が見られる。</p>	<p>・基本的な和・差・積・商の計算の復習を行う必要がある。特にかけ算の九九を定着させるために、百マス計算などを繰り返し行ったり、AIドリルで既習事項の復習を行ったりする。</p> <p>・筆算において、繰り上がった数や桁がずれてしまう計算のミスをなくすために、ノートのマス目に合わせてきれいに書くように指導を徹底する。</p>
図形	<p>平均正答率は61.1%で、市の平均を3.4ポイント下回っている。</p> <p>○二等辺三角形の作図について、正答率が81.8%と概ね理解できている。</p> <p>●コンパスの使い方やコンパスと使っての作図の正答率が低く、円の性質の理解やコンパスの使い方に課題が見られる。</p>	<p>・ボールなどの具体物や模型などを使って、円や球における直径や半径などの言葉の意味や関係の理解を促す。</p> <p>・分かっている数字や求める長さなど判断できるように、問題場面の提示の仕方を工夫する。</p> <p>・作業時間を十分確保したり、友達と学び合う学習形態をとったりするなど、さわる、動かす、測るなどの活動を大切に指導する。</p>
測定	<p>平均正答率は75.5%で、市の平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>○地図上の道のりの読み取りや重さの単位について、正答率は8割を超え、概ね理解ができている。</p> <p>●はかりの目盛りを正確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<p>・時刻や時間、何分後や何分前などについて、他教科や日常生活で活用が図れるようにする場を設け、有用性を実感させる。</p> <p>・具体物の操作を取り入れて、実際に測る活動や場面を視覚的に捉えさせることで、問題場面の把握ができるようにする。</p>
データの活用	<p>平均正答率は50.9%で、市の平均を3.5ポイント下回っている。</p> <p>○棒グラフの特徴や目盛りの読み方について、概ね理解できている。</p> <p>●問題に合った情報を棒グラフから読み取ったり、複数の棒グラフを比較して答えを求めたりする応用問題に課題が見られる。</p>	<p>・文章問題を考えるときに、分かっていること、分からないこと、求めることを明確にするために、問題に線を引く、声に出して読む、確認して書き出すなどの指導を繰り返し行う。</p> <p>・説明する問題への対応として、筋道を立ててよく考えたことを表現できるようにするために、授業での書く場面を継続的に取り入れるとともに、多様な考え方があることのおもしろさに気付くことができるようにする。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.8	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	39.3	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.9	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	63.6	66.6	64.9
観点	知識・技能	62.8	66.8	65.4
	思考・判断・表現	67.0	66.8	65.9



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は74.8%で、市の平均より1.4ポイント下回っている。</p> <p>○光の反射や電気の流れるつなぎ方・電気を通す性質のあるものについて、概ね理解ができています。</p> <p>●風やゴムのはたらきでは、ゴムの長さや稼働距離の関係や実験結果から車の動き方を推測することに課題がある。</p>	<p>・市の平均と比較すると、全体的に低いので、実験やその結果を理解するだけでなく、単元の終わりにノートにまとめたり、練習問題に取り組みせたりして、定着を図るようにする。</p> <p>・実験・観察した結果から分かったことを個人で考えるだけでなく、友達の考えと比較したり、全体で発表したり、自分の言葉で説明したりするようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は39.3%で、市の平均より5.2ポイント下回っている。</p> <p>○ものの重さから同じ種類の木でできている物を推測する問題について、概ね理解が見られる。</p> <p>●物の重さの性質についての正答率が非常に低く、正しい重さの性質を選択したり、実験結果の理由を説明したりすることに課題がある。</p>	<p>・実験やその結果を理解するだけでなく、グループでの考察の話し合いを適宜取り入れて理解を深め定着を図る。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は61.9%で、市の平均より1.7ポイント下回っている。</p> <p>○昆虫の体のつくりや特徴、種類よっての成長過程の違いについて概ね理解できている。</p> <p>●虫眼鏡の正しい使い方、正しい観察の仕方の理解について課題がある。</p>	<p>・観察する機会を増やすと共に、植物の育ちと草丈の関係を理解させるために、観察シートを積み重ねていくだけでなく、草丈や花の数など数値化できるものをグラフにまとめ、長期的な変化の様子を捉えられるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は63.6%で、市の平均より3.0ポイント下回っている。</p> <p>○影と太陽の位置の関係性や日向と日陰の地面の温度の違いについて、概ね理解ができています。</p> <p>●太陽の位置の変化を方角で捉えたり、それに伴う影の位置の変化の理解に課題が見られる。</p>	<p>・資料を用いて考えたり、実体験と結び付けて考えたりしたことを言語化する機会を設け、定着を図る。</p>

## 宇都宮市立緑が丘小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の授業の予習をしている」の肯定的回答は66.7%で、県の平均を10.7ポイント上回っている。また、「家で学校の授業の復習をしている」の肯定的回答は63.2%で、県の平均と同等である。宿題や自主学習など行うことを決めて取り組みませ、家庭学習のやり方についても指導しているため、習慣が図られていると思われる。

○「グループなどでの話し合いに自分から参加している」の肯定的回答は80.7%で、県の平均を4.4ポイント上回っている。また、「授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている」の肯定的回答は82.5%で、県の平均を3.7ポイント上回っている。パソコンやホワイトボードを活用して発表の仕方を工夫したり、グループでの話し合いを取り入れたりしながら考えを伝え合う機会を取り入れ、定着を図った結果と思われる。これからはさらに、発表することで自分の考えを確認したり、友達の発表を聞いて考えを広げたりすることができるようにしたい。

○「だれにでも思いやりの心をもってせっている」の肯定的回答は93.0%で、県の平均を4.0ポイント上回っている。これまで児童自身でよりよい生活を送るための公平な意思決定の場を設けてきた。これからも授業や生活の中で児童同士をつなぐ役割を、教師が丁寧に言い、誰にでも思いやりの心をもちながら活動ができるようにしていきたい。

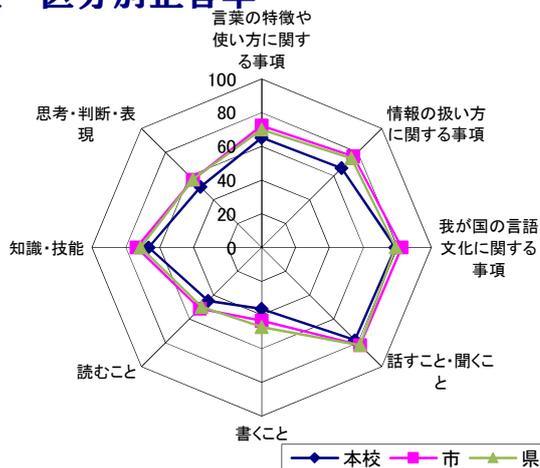
●「学校の授業以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしはのぞく)の回答では、30分以上読書をする児童は、45.6%で県の平均とほぼ同等である。一方で10分未満と回答した児童が33.4%である。全体的に見ると、読書をする時間が減ってきている。家での読書習慣が身に付くように読書のよさや、おすすめの本の紹介などを行い、子供たちが本を読むことの楽しさを味わえるような取組を進める。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」回答では、8時間以上睡眠をしていると回答した児童は71.9%で、県の平均を5.3ポイント下回る。一方、7時間より少ないと回答した児童は、12.3%で県の平均を3.5ポイント上回る。これからは、普段の生活の中だけで伝えることに加え、保健体育や学級活動の時間を通して、睡眠を十分にとることの大切さについて考える機会を作っていく。

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.2	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	66.7	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	78.8	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	77.7	81.9	82.0
	書くこと	36.4	43.5	47.2
	読むこと	44.7	51.4	49.8
観点	知識・技能	66.5	73.6	71.3
	思考・判断・表現	50.9	57.1	57.2



## ★指導の工夫と改善

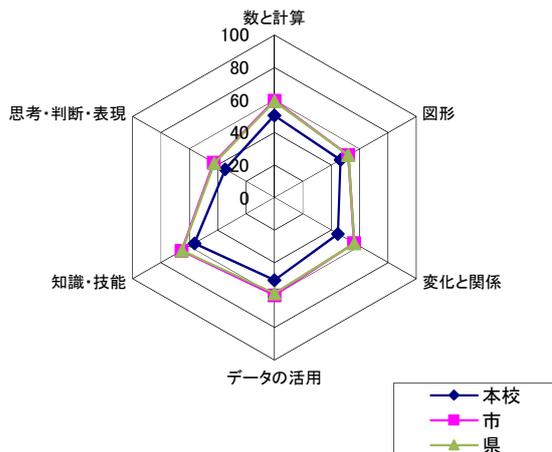
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、65.2%で、市の平均を7.1ポイント下回っている。</p> <p>○既習の漢字を読むことについては、市の平均とほぼ同率で概ねできている。</p> <p>●漢字を正しく書くことについては大いに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニテストを細目に行い、習熟を図りながら、文を書く際、習った漢字を使うよう意識付けを図る。</li> <li>・漢字の読み書きについては、引き続き、漢字スキルや1人1台端末を活用した繰り返し学習を行った上で、既習した漢字を日頃から使う指導を続けていく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、66.7%で、市の平均を9.7ポイント下回っている。</p> <p>●漢字辞典の使い方についての理解に課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃より、新出漢字について、漢字調べを実施し、辞典を活用した調べ学習の楽しさや分かりやすさを実感できるよう、授業に組み込んでいく。</li> <li>・家庭学習や自主学習で、漢字辞典を用いた学習方法を促していく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は78.8%で、市の平均を3.6ポイント下回っている。</p> <p>●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ことわざの意味を調べたり、ことわざを使った文章を作ったりする学習を適宜取り入れ、家庭学習にも推奨していく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率77.7%で、市の平均を4.2ポイント下回っている。</p> <p>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることや話し手が伝えたいことの中心を捉えることは概ねできている。</p> <p>●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目して、考えをまとめたり、相手に伝えるように、自分の考えを理由を挙げながら話したりすることに関して課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見を伝える場面では、根拠をはっきりとさせて、話すことができるよう、ノートやワークシートなどに自分の考えとその理由を書いた上で伝えさせる。</li> <li>・司会の役割を全員が経験するようにし、話し合いの経過を見ながら、意見をまとめる活動を入れていく。</li> <li>・学習の中で、共通点や相違点に着目することを適宜、取り入れていく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率36.4%で、市の平均を7.1ポイント下回っている。</p> <p>○段落の役割について理解し、2段落構成で文を書くことは概ねできている。</p> <p>●指定された長さで文章を書いたり、内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことに関して課題が残る。</p> <p>●25・8%の児童が無解答である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作文を書く経験を積ませ、書くことの抵抗感をなくしていく。面白作文や行事の後の日記や振り返りなど、書きたくなる題材を提示し、楽しんで書けるようにする。</li> <li>・国語以外の学習においても、目的を明確にして、自分の考えを書く活動を随時入れていく。</li> <li>・事実と自分の考えを分けて書く活動をする際、文末表現などで、違いが分かる書き方ができるよう、指導助言を続けていく。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率44.7%で、市の平均を6.7ポイント下回っている。</p> <p>○登場人物の性格について、具体的に想像することや叙述を基に文章の内容を捉えることに関しては、概ね出来ている。</p> <p>●登場人物の気持ちの変化について、複数の叙述を結び付けて具体的に想像したり、文章を読んで感じたことや考えたことを共有したりすることに関しては、課題が残る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推奨し、物語を読む経験を積ませる。</li> <li>・文章に印や付箋を付けるなどの活動を取り入れ、叙述に沿って登場人物の行動や気持ちの変化を読み取れるよう指導を続けていく。</li> <li>・物語の登場人物の心情曲線や表情などを書かせるなどし、気持ちの変化に気付く学習を取り入れていく。</li> <li>・物語の感想や自分の考えをペアやグループ、全体で共有する活動を続けていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	50.5	59.7	59.2
	図形	46.5	52.1	52.1
	変化と関係	44.7	56.1	56.3
	データの活用	50.8	60.1	58.9
観点	知識・技能	56.4	65.5	65.1
	思考・判断・表現	34.7	42.9	42.4



## ★指導の工夫と改善

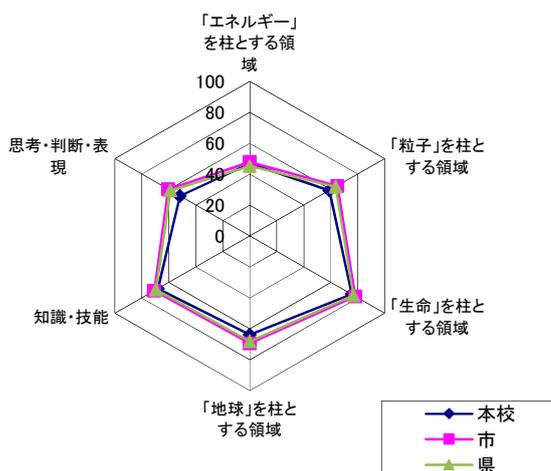
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は50.5%で、市の平均を9.2ポイント下回っている。</p> <p>○大きい数の読み方や小数のしくみに関しては、概ね理解できている。</p> <p>●小数の大きさの順で正しいものを選んだり、概数について理解し、目的に応じて正しく見積もったりすることに關しては、課題が見られる。</p>	<p>・家庭学習や朝の学習の時間を利用して、計算ドリルや1人1台端末を活用しながら、小数や概数の学習を繰り返す行い、学力の定着を図る。</p> <p>・日常生活と結び付けて、概数や見積もりのよさに気付くことができるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は46.5%で、市の平均を5.6ポイント下回っている。</p> <p>○ひし形の作図に關しては、概ね理解できている。</p> <p>●180度より大きい角の大きさを求めることや、面積の単位の関係を説明することに關して課題が見られる。</p>	<p>・作図に關するプログラミング等を利用するなど、ICTを活用した学習問題に取り組ませ、意欲的に学習が進められるようにする。</p> <p>・面積の単位の関係について、繰り返し問題を解かせることで、習熟を図るとともに、分かる喜びを味わえるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は44.7%で、市の平均を11.4ポイント下回っている。</p> <p>●表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題や、伴って変わる2つの数量の關係について分かることを説明することにおいて、課題が見られる。</p>	<p>・説明を求められる問題では、無解答も多くあることから、自信をもって学習を進められるよう、じっくり考える時間を設けるとともに、自分の考えを表現する際には、1人1台端末を効果的に活用する。</p>
データの活用	<p>平均正答率は50.8%で、市の平均を9.3ポイント下回っている。</p> <p>○2つの折れ線グラフから分かることを答えることは、概ねできている。</p> <p>●2つの折れ線グラフから分かることとして正しいものを選ぶ問題において、課題が見られる。</p>	<p>・グラフから読み取ったことを説明する問題では、無解答もあることから、課題に対して自分の考えを書いたり、根拠や具体物を示しながら、考えを話したり書いたりする活動を多く取り入れる。</p> <p>・グラフの読み取りに關しては、他教科との関連も図り、習熟と活用をくり返す。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	46.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	58.9	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	75.5	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	63.8	69.5	68.1
観点	知識・技能	68.1	70.8	69.5
	思考・判断・表現	51.7	60.5	58.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は46.8%で、市の平均を1.0ポイント下回っている。</p> <p>○乾電池のつなぎ方とその名称、電流が大きくなる回路の理解については概ねできている。</p> <p>●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことの理解については課題が見られる。</p>	<p>・実験に関しては、グループで活動にする際にも、全員が回路をつなげたり、試したりすることを学習し、結果を実感し、まとめられるよう、指導助言を続けていく。</p> <p>・改めて、簡易検流計の理解を図る。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は58.9%で、市の平均を6.0ポイント下回っている。</p> <p>○金属をあたためたり冷やしたりした時の体積の変化については概ねできている。</p> <p>○水を冷やす実験の準備をすることなどに関しては、よくできている。</p> <p>●ボールに空気を入れるとはずむ理由の説明や夏に線路のレールのつなぎ目がない理由についての説明に関して課題が残る。</p>	<p>・実験結果を基に、実生活で見られることを説明することができるよう、また根拠をはっきりとさせ記述できるよう、指導助言を続けていく。</p> <p>・無解答もあるので、実験結果から考察する際、自分の言葉で書くだけでなく、説明する言葉の理解を深める学習も合わせて行っていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は75.5%で、市の平均を2.7ポイント下回っている。</p> <p>○腕を曲げたときの筋肉のようすの理解に関しては、概ねできている。</p> <p>●季節によって気温や動植物のようすが違うこととの理解に関しては課題が見られる。</p>	<p>・季節ごとの動植物の変化に、興味をもつよう、観察を続け、変化に気付くよう指導助言を続けていく。観察したことをカードに丁寧に記し、そこから気付いたことを共有し、記録に残していく。</p> <p>・普段から、自然に目を向けて活動するよう意識付けを図っていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は63.8%で、市の平均を5.7ポイント下回っている。</p> <p>○調べて分かったことから、土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を読み取ることに限っては、概ねできている。</p> <p>●星の明るさと色の理解について課題が見られる。</p> <p>●冷やしたペットボトルについて水滴が、空気中の水蒸気が変化したもののだとの理解に課題が残る。</p>	<p>・星座早見を利用した観察を行うだけでなく、宇宙に関する話や児童が興味をもちやすい星座の話なども取り上げ、関心をもたせた上で、ITCの活用を図るなどの学習の工夫を続ける。</p> <p>・児童が学んだことを分かりやすく、自分でまとめ、習ったことの定着を図る。</p> <p>・水滴や結露はよく目にする事象なので、普段から問いかけるなどして、理解を深めるよう支援していく。</p>

# 宇都宮市立緑が丘小学校 第5学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定回答割合は66.1%で、県の平均を5.2ポイント上回っている。また、「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定回答割合は64.7%で、県の平均を1.5ポイント上回っている。これは、家庭学習において学習計画を決め、授業で習ったことの復習やテストでまちがえた問題の勉強に自ら取り組む習慣が身に付いてきていると考えられる。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定回答割合は92.7%で、県の平均を1.7ポイント上回っている。また、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」の肯定回答割合は88.3%で県の平均を11.2ポイント上回っている。毎日の授業の中でめあて・まとめ・ふりかえりの流れが定着していると考えられる。今後も、分かったことや気付いたことを意識させ、1時間の授業内容について振り返ることで、その単元の学習の理解をより確かなものにさせていく。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定回答割合は75.0%で、県の平均を2.3ポイント上回っている。また「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定回答割合は80.9%で、県の平均を4.9ポイント上回っている。今後も、一人一人が授業にしっかり参加できるよう1人1台端末の効果的な活用を図るとともに、考えを共有する時間を大切に授業を展開していく。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定回答割合は58.9%で、県の平均を8ポイント上回る。今後も授業で1人1台端末の画面共有等を効果的に活用し、自分の考えを表現したり友達に伝えたりすることができたと児童が実感できる場を設定していく。また、話し合い活動の充実を図り、しっかり自分の意見を発表できるようにさせていきたい。

●「ぎ問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定回答割合は61.7%で県の平均を2.9ポイント下回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の肯定回答割合は52.9%で、県の平均を14.6ポイント下回っている。本やインターネットは調べ学習で活用できるという意識をさらにもたせるために、授業の中で図書室の本や1人1台端末を用いて調べ学習を進められるようにしていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の肯定回答割合は61.8%で、県の平均を2.3ポイント下回る。係活動や当番活動を計画的に行わせることで、児童に自己有用感を味わわせていく。また、高学年として、委員会活動など学校全体に関わる活動に積極的に取り組めるよう支援することで、さらに自己有用感を高めていきたい。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか」における4時間以上使用している割合は27.9%で、県の平均を13.7ポイント上回る。また、「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか」では、3時間以上使用している割合が10.3%で、県の平均を3.2ポイント上回る。スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言を家庭に呼びかけたり、ノースマホ・ノーゲームデーを実施したりし、家庭と連携を図っていくことが重要である。

## 宇都宮市立緑が丘小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本を定着させるための取組	・「宇都宮モデル」を活用し、授業の中で、必ず「めあて・まとめ・ふりかえり」を行い、授業の焦点化を図る。 ・一人一人が考えたことを、表現する場を多様に設定する。	・授業の中で、めあての確認を行っている実感している児童は、4・5年生ともに約9割である。振り返り活動を実感している児童は、4年生では約8割、5年生では約9割である。 ・自分の考えを文章にまとめて書くことに難しさを感じている児童は、4年生は、約7割、5年生は約6割である。
・知識・技能を活用する力を育成するための取組	・話し合いの時間の確保や1人1台端末の活用により、多角的な見方ができるようにする。 ・振り返りを通して集団の学びを個の学びに返し、個の学習を深められるようにする。	・友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると感じている児童は、4年生では約4割、5年生では約5割である。グループでの話し合いに自分から進んで参加していると実感している児童は、4年生では約8割、5年生では約4割である。
・学ぶ意欲をもち続けるための取組	・互いに認め励まし合い、学びに向かう学級集団づくりを目指す。 ・家庭学習等では、個人に適した学習を行いながら自己調整力を育む。	・家庭学習を計画的に行っている児童は、4・5年生ともに約7割ほどで、内容は学校の宿題が最も多い。 ・クラスは発表しやすい雰囲気であると感じている児童は、4年生では約8割、5年生では約7割である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・教科に関する調査から、市や県の平均よりも全体的に低い傾向が見られた。 ・「書くこと」を含め、記述式の問題においては、無回答の児童が少なくなかった。	・基礎基本を定着させるための取組 ・書く力、考える力を高めるための取組	・朝の学習の時間や各単元の内容を復習する時間に、ドリルやプリント、AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を図る。また、新しく学ぶことを、既習の学習事項と結び付けるなど、知識や技能を活用するようにさせ、考えを深める場を設けるようにする。 ・自分の考えを書き残す機会を多く設けたり、書き方の形式を示しながら書くようにしたりする。様々な教科や場面の振り返り等の時間を利用しながら書くようにする。